

# Scramble Shot

密さ故に自然な流れに欠ける傾向もあるが、そこをフーバーのピアノが歌って補う共演は高貴な芸術の結晶となり、ドイツ歌曲の真骨頂を示した。(中東生)

## Concert ゲルハーヘル&フーバーのスタジオコンサート

多くの現代作曲家が世界初演に起用するなど、その芸術性を高く買われているバリトン歌手のクリスティアン・ゲルハーヘルが、ピアニストのゲロルド・フーバーと2014年からシューマン歌曲全集録音に取り組んでいる。11月20日に、バイエルン放送局内の210人収容のスタジオで、BRラジオの視聴者を抽選で20名招待した他は、非公開のトーク・コンサートが行われた。

かつて、ディートリッヒ・フィッシャー＝ディースカウもシューマンの歌曲全集を録音しているが、女声用の歌曲は除外されていたので、今回が初の完全な全集になるという。今までのほぼすべての録音セッションはこのスタジオで行われたとあって、音響を知り尽くしたゲルハーヘルは、新譜「Frage」収録曲の「6つの歌」op.107を、囁くような親密さで歌い始め、フーバーはピアノを切なく鳴らせた。

続く《レーナウの6つの詩とレクイエム》op.90についてゲルハーヘルが解説した後、丁寧に歌い上げた二人は、指揮者で音楽学者のペーター・ギュルケ氏とソニー・インターナショナルのボグダン・ロシッチ社長、ハイデルベルグ国際歌曲センターのトルステン・シュミット氏と壇上で語り合い、最後に《ロマンスとバラード第2集》op.49で締めくくった。

ドイツ語のリズムに忠実なフレーズと、各母音に最適な響きと色を厳選したようなゲルハーヘルの歌唱は、その緻



ゲルハーヘル(右)とフーバー ©中東生